

旧広島陸軍被服支廠について

令和5年8月

添付資料 目次

P 1 ・ ・ ・ 旧広島陸軍被服支廠の概要

P 2 ・ ・ ・ 旧広島陸軍被服支廠の位置図

- ・ P2 ・ ・ 当時の敷地

- ・ P3 ・ ・ 近隣航空写真

- ・ P4 ・ ・ 周辺道路等

- ・ P5 ・ ・ 広域図

P6 ・ ・ ・ 旧広島陸軍被服支廠のアクセス

P7 ・ ・ ・ 旧広島陸軍被服支廠周辺の主要施設

- ・ P7 ・ ・ 被爆建物

- ・ P8 ・ ・ 主要施設

P9 ・ ・ ・ 旧広島陸軍被服支廠の沿革等

被服支廠の概要

現存する4棟のうち1棟を国が、3棟を県が所有している。被服支廠倉庫は、重要な被爆建物であるとともに、広島近代史を象徴する存在である。

また、建築史上の価値も高く、国内最古級の鉄筋コンクリートであるとともに、レンガとRCの併用という大変珍しい構造になっている。デザインという面でもレトロな外観とモダンな内部をあわせもつ独特な存在である。



1号棟3階部分



1～3号棟



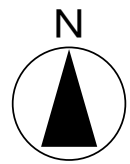
4号棟

表 規模・構造			
区分	第1～3号棟	第4号棟	合計
所有者	広島県	国	—
外寸 (長さ×幅×高さ)	91.13×25.68×15.25	105.57×25.68×15.25	—
構造	鉄筋コンクリート造3階建外壁はレンガ組積造		—
建築面積	2,340.09×3棟＝7,020.27	2,684.29	9,704.56
延床面積	5,578.66×3棟＝16,735.98	4,985.12	21,721.10
敷地面積	12,469.88	4,716.20	17,186.08

※ 敷地面積はH30.3.13：出汐町倉庫敷地部分を827番35、827番36、827番37に分筆した際の座標測量成果。
出典：県資料

■被服支廠の概要（当時の敷地）

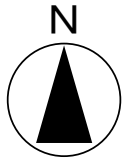
旧被服支廠当時は、現在の県立工業高校、皆実高校、テレビ新広島などを含む広大な敷地であった。



■被服支廠の位置（近隣航空写真）

近隣地域は住宅地が広がるエリアであり、多数の学校が立地している。

赤線で示す、4 棟の建物の周辺の空地も事業範囲に含む想定である。



■被服支廠の位置（周辺道路等）

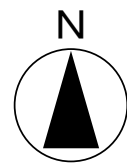
被服支廠は、広島駅、広島港、高速道路ICや市中心部から3km以内の位置に立地している。



- JR広島駅から約2.5km（路線バス・徒歩 約20分）
- 広島港から約3km（路線バス 約15分）
- 原爆ドームから約3.5km（路線バス・徒歩 約25分）
- 高速道路 宇品ICより約2km（自動車 約5分）
- 国道2号 出汐交差点より約300m（自動車 約1分）

■被服支廠の位置（広域図）

南側には瀬戸内海が広がり、広島港からは宮島や四国の松山と連絡するフェリー航路が就航している。



■被服支廠への公共交通アクセス

被服支廠から徒歩10分以内に複数の路線バスや路面電車の停留所が存在している。



■広島市内の被爆建物

広島市内には多くの被爆建物が市内中心部を中心に現存しており、資料館などとして活用されている。



被爆建物の位置と活用の状況

- ① 原爆ドーム
(旧)広島県産業奨励館、(現)歴史遺産として世界文化遺産登録
- ② 平和記念公園レストハウス
(旧)燃料会館、(現)観光案内所、休憩・喫茶ホール、展示室
- ③ 広島アンデルセン
(旧)帝国銀行広島支店、(現)ショッピング、レストラン、パーティ会場
- ④ 旧日本銀行広島支店
(旧)日本銀行広島支店、(現)芸術文化発表の場
- ⑯ マツダ宇品工場
(旧)陸軍船舶練習部、(現)工場
- ⑳ 旧広島県港湾事務所
(旧)宇品警察署、(現)商業施設としての活用検討中

<資料館として活用>

- ⑤ 本川小学校平和資料館
- ⑥ 袋町小学校平和資料館
- ⑮ 広島大学医学部医学資料館
- ⑰ 広島市郷土資料館：(旧)宇品陸軍糧秣支廠(缶詰工場)

<施設形態保存・そのまま利用>

- ⑦ 福屋百貨店
- ⑧ NTT 十日市ビル 1 棟
- ⑨ 広島大学旧理学部 1 号館
- ⑩ 頼山陽文徳殿
- ⑪ 広島電鉄(株)千田町変電所・事務所
- ⑭ 広島大学附属中・高等学校講堂

<文化財等指定>

- ⑯ 広島市水道資料館：(旧)牛田水源地送水ポンプ室、近代化産業遺産指定
- ⑰ 広島市江波山気象館：市指定重要有形文化財

■広島市内の主要施設

現在、広島市内には美術館・資料館やホテルなどの施設が多数あり、
 今後はスポーツ施設などが多数開業予定となっている。



L 被服支廠

■既存の施設

- ① 広島県立美術館
- ② 広島県立総合体育館
- ③ ひろしま美術館
- ④ 広島原爆死没者追悼平和祈念館
- ⑤ 広島国際会議場
- ⑥ 広島平和記念資料館
- ⑦ 広島市現代美術館
- ⑧ リーガロイヤルホテル広島
- ⑨ ANAクラウンプラザホテル広島
- ⑩ ホテルグランヴィア広島
- ⑪ シェラトンホテル広島
- ⑫ グランドプリンスホテル広島
- ⑬ マツダスタジアム

■再開発

- ⑭ サッカースタジアム（中央公園広場）
令和6年開業目標
- ⑮ ヒルトン広島
令和4年開業
- ⑯ 多目的サーキット（マリーナホップ）
計画中
- ⑰ アーバンサイクルパークス広島（広島競輪場）
令和7年開業予定
- ⑱ 広島市中央図書館など移転（エールエールA館）
計画中
- ⑲ スケートボード（旧広島市民球場跡地）
令和5年開業予定

【添付資料 1 旧広島陸軍被服支廠の沿革等】

9

年		摘 要
大正 2	1913	竣工 陸軍被服支廠（現在109年経過） 陸軍兵士の軍服・軍靴等の製造と貯蔵を担う。
昭和20	1945	被爆 被爆者の臨時救護所として使用
昭和21	1946	広島高等師範学校（現在の広島大学教育学部）として使用
昭和27	1952	国立広島大学整備のため，交換により，大蔵省から3棟を取得
昭和31	1956	日本通運に貸付け（H7年3月まで約40年間）
平成 6	1994	広島市が被爆建物として登録 ■この間，様々な利活用構想が検討されるが，実現には至ってない。
		・瀬戸内海文化博物館（仮称）構想（H7 県） ・エルミタージュ美術館分館誘致構想（H12 県） ・折り鶴ミュージアム（仮称）構想（H23 広島市）
平成30	2018	○耐震性能等調査結果「震度 6 強の地震で倒壊する可能性」（30年1月） ○耐震改修試算 ・内部利用（博物館等） 1 棟約 3 3 億円， 3 棟で 1 0 0 億円 ・建物保存のみ 1 棟約 2 8 億円， 3 棟で 8 4 億円 ■大阪府北部地震のブロック塀倒壊事故 （30年6月）
令和元	2019	建物の安全性の確保と建物が有する価値等を考慮して，「1棟保存・2棟解体」の対応方針案を示す。

【添付資料 1 旧広島陸軍被服支廠の沿革等】

10

年		摘 要
令和 2	2020	煉瓦壁の倒壊防止を目的として、建物壁面補強調査・実施設計業務を実施（2年1月～2年9月） ⇒調査の中で、煉瓦壁の強度が高いことが判明（2年5月）
		煉瓦壁の強度を踏まえ、改めて建物の詳細調査を実施（2年10月～12月） ■煉瓦壁は地震等による倒壊の恐れはないものの 各棟の妻壁補強や屋根瓦の葺替えなどの早急な対応が必要 ■国指定の重要文化財級の価値がある。 ■概算工事費：1棟約5.8億円、3棟で17.4億円
令和 3	2021	詳細調査結果を踏まえて、
	県議会2月定例会	○重要文化財級の価値があり、建物の解体を俎上に載せることは適当でないこと。 ○概算工事費は、低減される見込みであること。 ○広島市からは、3棟保存を求められていること。
		⇒「1棟保存、2棟解体」の現行方針案の見直しも含め、 最終的な方向性を検討・整理するとの方針を示す。
	県議会6月定例会	早急に実施する必要がある安全対策等の検討に必要な予算を提案し可決・成立
		○安全対策に係る建物3棟の実施設計 ○重要文化財の指定に向けた建築物の価値調査 ○活用の方向性のとりまとめに向けた検討
		令和5年3月末に完了
令和 5	2023	国、県、広島市で構成する「旧陸軍被服支廠の保存・継承に係る研究会」において、 最終的な活用策の議論・検討を実施中。